

# 市長が思いどおりに動くには？

## 法のしほり 職員の抵抗 議会の抵抗 市民の支持

### ■市長は万能ではない

とかく政治の不満をすべて「市長が悪い」で片づけてしまう人がいるが、世の中そう簡単ではない。確かに市政の最高責任者で、権力が集中しているが、そこには色々な制約や抵抗がある。

職員（公務員）は市長に従わなければならないが思い通りに動くとは限らない。職員も人間であり、意地もあればプライドもある。叱られて奮起する者、褒められて伸びるタイプ、色々だ。職員の抵抗は無視できない。

市長の考え方と議会の総意はどちらも同じ市民が選挙で選んだのだからふつう大きな隔たりはないはずだが、現実はどうか。島原市の古川市政の場合、過半数の市議は対立候補を応援した経緯があり、ねじれ関係でスタートした。それゆえか議会の抵抗も大きい。

憲法も法律も条例も、もともと権力者の暴走をしぼる側面がある。市長はまず法を守らなければならない。コンプライアンス＝法令順守の義務。コンプライアンスは元々、「社会の求めに応じること」であり、法は社会の求めるものを成文化したものだ。法に従うことは社会の要求＝市民の願いに応えることだが、かえって手続きに時間がかかったり、現実社会に合わなくなっていることもある。

ならば法は変えればいいのだが、法を変えるのは議会だ。議会が市長（市民の願い）と同じ方向を向いているとは限らない。

市民に直接選ばれた市長だが、思い通りに動かないのが世の中だ。抵抗勢力がどこにあるのか？監視して見極めなくてはならない。悪いのは市長か？職員か？議会か？ルールやシステムに問題はないか？結局、市長の背中を押して市民の願いを実現させるには『市民の支持』＝世論の後押しが必要だ。

### ■職員の抵抗（ブレーキ）

職員の抵抗などと表記すると、職員に悪意があると思われるかもしれないが、本人は市民に良かれと思っていたり、市民の不利益に気づかない場合が多い。思い違いもある。悪意ある不正はもちろん許せないが、見て見ぬふりも多い。勘違い、無知、気付かないことも乗り越えなければならない。

公務員の仕事は新しいことが評価されにくく、ミスすれば叱られる。やって叱られるよりやらないでおこうという、不作為・見て見ぬふり・ことなかれ主義になりがちだ。

実はこの職員の不作為・ことなかれ主義こそ市政停滞の最大の要因かもしれない。

### ■議会の抵抗（ブレーキ）

議会はどちらかという、市長執行部の暴走を止めるチェック機関である。議会に良識があればいいが、今の国会のように首長（総理）の暴走を止めないどころか、後押しするようでは議会は不要だ。

それどころか、市長が進める善政を多数を背景にメンツや意地悪で邪魔立てするようでは、ますます議会不要論が広がっていく。

議会に所属する議員として、議会をおとしめるような発言はしたくないのだが、残念ながらあるべき議会像と現実の（島原市）議会には大きな開きがある。

### ■きめ細かに考えよう

現実の政治は○か×かではない。色々な考えがあって、限られた予算で最大限の効果が期待される。多様な考えが反映できるはず。

松坂の評価では「古川市長は頑張っている」頑張りに比例する効果ももっと出ていいはずだ。○か×かの乱暴な見方ではなく、きめ細かに見て考えましょう。